

事業所名		なないろKIDS				支援プログラム（参考様式）				作成日	2026 年	1 月	14 日
法人（事業所）理念		・子どもの個性を未来へと繋ぐ架け橋となる。 ・専門性を活かし安心を届け社会に貢献する。 ・利他の心をもってお互いの信頼関係を築く。											
支援方針		・子どもの特性に合わせた適切な支援を行うため、職員の役割分担を明確にすることで、支援の統一性をはかる。 ・職員同士は声掛けや指示を出し合うことで、連携し支援の安定をはかる。 ・『適応行動』を身に付けるための支援を行い、出来なかった際には何度も『見せて教え』、定着を目指す。 ・基本的社会スキルである「言われたことをする」「助けを求める」「許可を取る」「待つことができる」「落ち着く」を支援員が具体的に『見せて教える』。 ・個々の子どもの特性や発達に合わせた支援（行動の支援、認知の支援、感情の支援）に対して「声をかける」「一緒に行く」「代わりに行く」を段階的に支援する。											
営業時間			9 時	30	分から	18 時	30	分まで	送迎実施の有無	あり	なし		
		支 援 内 容											
本人支援	健康・生活	・基本的生活習慣（食事、排泄、衣類の着脱、身体の清潔、睡眠等）を送るために、基本的身辺動作（スプーンや箸の使い方、トイレトレーニング、座る姿勢等）の獲得を目指す。 ・必要な運動動作（歩く、走る、跳ぶ等）をすることで、心身の成長を促す。 例）スプーンや箸及び手順カード、ラダー、ハードル、マーカーコーン、ロープ、輪投げ、動画、清掃道具等											
	運動・感覚	・前庭感覚や固有感覚に刺激を与えるため、必要な運動動作を行う。 ・体操および様々な運動動作（アニマルトレーニング、ラダーやハードルを用いたプログラム）やソーラン節やダンス等の空間認知の獲得を目指す。 ・場面に応じた声の大きさのコントロール、生活音のコントロール、適切な力加減のコントロールができるようにする。 例）ラダー、ハードル、マーカーコーン、ロープ、輪投げ、動画、レゴブロック、LaQ、折り紙、パラバルーン等											
	認知・行動	・自分の行動が理解できるように見せて教える。 ・適応行動を見せて教える。 ・本人特有の考え方や、理解の仕方の幅を広げることができるように練習する。 例）TANO、ラインテープ、椅子、モデル、こども脳機能バランサープラス+等											
	言語 コミュニケーション	・場面や相手に合わせた、言葉の使い方を身に付ける。 ・音読や文字カードを用いた発語のトレーニングを行う。 ・絵カード等を用いて話せるようになるのではなく、絵カードを用いて「許可をとる」や「助けを求める」等のスキルを身に付け、コミュニケーションをとることができるようにする。 例）絵カード、表現ボード、パペット等											
	人間関係 社会性	・SST（対人関係や社会生活に必要なスキルを身に付けるトレーニング）を行う。 ・適応行動の復唱、パネルシアター等を用いる。ロールプレイにて実践練習を行う。 ・レクリエーションと通して、ルールを理解、負けても怒らない・泣かない、相手を賞賛することができるように練習する。 例）スケッチブック、パネルシアター、パペット、名札、ICT等											
家族支援		・家族の相談を受け、一緒に考え必要な情報を提供します。 ・相談に応じて、支援員が病院や市役所等の関係機関に同行もできます。						移行支援		・他事業所の紹介や必要に応じた情報提供を行います。			
地域支援・地域連携		・学校と連携し、情報を共有し、支援の安定を図ります。 ・地域への開放日や、見学の機会を設けます。						職員の質の向上		・外部講師をお招きして、職員力量向上の研修を行っている。			
主な行事等		・歓迎会、夏祭り、ルームキャンプファイヤー、運動会、クリスマス会、親子イベント、発表会等の季節行事 ・地域との交流日											